

# 顕彰会便り

No.19  
 平成14年(2002)12月8日  
 編集・発行  
 津田左右吉博士顕彰会  
 美濃加茂市蜂屋町上蜂屋3299-1  
 TEL. 0574-28-1110

## 特集

### 津田左右吉博士記念館の活動



▼琴の演奏体験をする下米田小学校児童

美濃加茂市下米田町西脇(下米田小学校隣)に移築復元された「津田左右吉博士記念館」が開館して以来、様々な活動が連日行われています。主なものは、子育て支援や学童保育、下米田小学校による授業の活用、各種サークル活動の場、顕彰会の事業などがあげられます。

その中でも、毎週土曜日には「さくらの会」によって各種講座が開催されています。また、津田博士に関する勉強会である「津田左右吉博士を学ぶ会」では、講師は大澤 功副会長が行い、美濃加茂市教育委員会、読書サークル米田会、下米田小学校家庭教育学級による後援を得て、十二回を重ねることができました。下米田町はもちろん、市外からも熱心に参加されていました。

## 津田左右吉博士を学ぶ会

### 『学徳高き津田博士』

これは、下米田小学校々庭に建てられた津田博士の胸像の正面台座にはめこまれた、元文相、哲学者である天野貞祐先生の恩師津田博士をたたえて揮毫されたことばです。

八十九年のご生涯を、清貧に甘んじて、ひたすら学問研究に精進された、希有(けう)の大学者といわれる郷土の偉人、津田博士に学ぶべきことは余りにも多い。その著作だけでも三十五巻の多きにのぼります。

博士の郷土に生をうけた私どもは「この大学者のご生涯に学び、その遺徳を後世に伝えていこう」と、学習会を始めて間もなく一年になります。歩みは遅々としていますが、まずは博士のご生涯をひと通り学習してきました。

歴史学者、思想史研究者としての、津田博士を学ぶことは専門分野になりますのでこれからのこととなりますが、日本の古代史を書きかえられたといわれる博士のご研究の一端に、皆さんと一緒に学習を進めたいと思います。この一年は博士の年譜によって、そのご生涯をたどったこととなります。

(大澤 功・顕彰会副会長)



第四回目には特別講師として、赤座憲久先生(『歴史学者 津田左右吉』著者)をお迎えしました

### 参加者の声

・下米田小学校校長室の写真の人物を少し身近に感じることができました。  
 (美濃加茂市下米田町在住 女性)

・親からの教えが、博士を心優しく、人間的に大きくしたのではないかと思います。  
 (美濃加茂市牧野在住 女性)

・博士の業績や人柄について理解が進みました。自分の活動に生かしたいと思っています。  
 (可児市在住 男性)

# わたしたち、記念館でこんな活動をしています

津田博士は、下米田で子供時代を過ごされました（現在の下米田小学校第一回卒業生）。七十五才で帰郷した後に書かれた「子どもの時のおもひ」には、豊かな自然や学校での様子が綴られています。大人はみな子供時代を懐かしく記憶しているものです。

ゆとりを失っている今の子供達に、様々な体験を通して豊かな時間を記念館で過ごしてもらってはどうか。大人達が、やさしく見守るべきではないでしょうか。（ある顕彰会会員の方より）

このようなお気持ちで、顕彰会事務局に寄せられました。同様な思いを抱かれた顕彰会会員の方々が、記念館で活動を進めています。ここに、ご紹介させていただきます。

～ 4月に行われた第一回目は、このような内容でした。～

日 程	内 容	備 考
6日（第1土曜）	お楽しみ「手品」	講師による手品披露（担当：舟橋さん）
13日（第2土曜）	初めての「手話」	初級の手話を学ぶ（担当：伊藤さん・山守さん）
20日（第3土曜）	おはなし・おはなし	お話よみきかせ（担当：渡辺さん ほか）
27日（第4土曜）	みんなで作ろう	手芸「毛糸で動物を作ろう」 材料費：実費（100円）（担当：木下さん ほか）

## わんわんの会

第一回 四月

（時間：午後二時～三時）

\* 月毎に案内チラシを回覧しています。

## 【お知らせ】

基本的に第二土曜日は、毎月季節に合わせて、いけ花やお茶を教えて頂きます。親子での参加もお待ちしております。講師は片山慶子さんです。

会費は実費（お茶：二〇〇円、お花：時価）です。事前にお申し込みください。

申し込み先：さくらの会（中田光子）

TEL二六―四三三六（24時間留守番電話）

\* お名前と町名、電話番号を教えてください。

## 【お願い】

子ども達とのふれあいをしてくださる方や、手作り等の趣味を生かして講師を担当していただけるボランティアの方を探しています。ご連絡ください。

連絡先：さくらの会（中田光子）

TEL二六―四三三六



## いけ花・茶の湯

「目に見えない、お金で買えない心の豊かさを求めて」

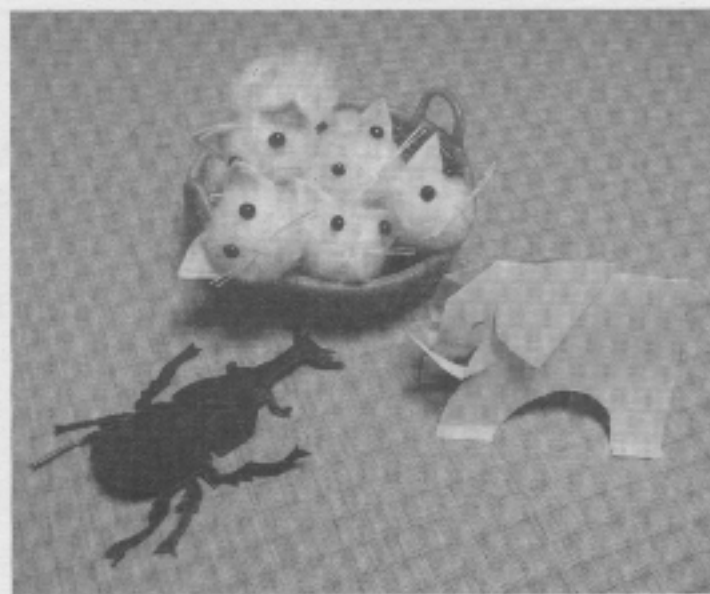
一輪の花に感動し、一服のお茶を感謝をこめていただく。そのような中で折目、はじめ、思いやり等を育むことができればうれしいですね。（上記参照）講師：片山慶子

## お話よみきかせ

絵本の読み聞かせ、語り、紙芝居などを経験豊かなメンバーが受け持ちます。津田記念館で子供も大人も共に出会える楽しい時を一緒に作り上げましょう。

この地域に伝わる昔話をしてくださる方、大歓迎です。ぜひお越しください。

（第3土曜日 午後2時からです。）





# 第17回 津田左右吉賞の結果について

## 最優秀賞は、村井さん（伊深小）と 座馬さん（東中）

平成十三年十一月十一日、「第十七回 津田左右吉賞（津田左右吉博士顕彰会主催、美濃加茂ライオンズクラブ・可茂地区市町村教委後援）」の授賞式及び作文発表会が、津田左右吉博士記念館（美濃加茂市下米田町）で行われました。

今回は「あなたの夢」・「津田左右吉博士」をテーマに作文募集を行い、小学校の部に十一校から百四十点、中学校の部に十六校から百六十五点が寄せられました。そのうち二十名が、佐合隆治会長から表彰状など



が贈られています。また、村井さんは受賞作「祖母の病気から見えてきた私の夢」、座馬さんが「わたしの夢」を発表し、二人とも自分の体験をきっかけとして広がってきた「夢」を力強く語ってくれました。

上田勇夫審査委員長（双葉中学校長）からは、「ゆめ」は、その人の生き方へつながるものである。参加者の多くは、学校外での体験も通じて様々な人と出会い、全く別の生き方を学ぶ機会を得、彼らの言動を鋭く感じ取っている」と全体への講評をいただきました。

その後記念講演会として、朗読・話し方研究家の富田信子氏による講演が行われました。実際の読み聞かせや朗読も交えながらのお話に、参加者は引き込まれていました。

\*津田賞は、津田博士が「子供たちのために」と言って、自分の著書などを下米田小・中学校に贈りつづけていました。これが下米田小学校に残る「津田文庫」です。博士の没後は、津ね夫人が同校へ多額の寄付金を贈られました。その厚志により博士の文庫を製作し、卒業生に「津田賞」として贈りました。現在は、このような事業を顕彰会が引き継いでいます。

入賞者は次の皆さんです。

### 〈小学校五・六年生の部〉

#### 最優秀賞

村井 美穂（伊深小五年）

「祖母の病気から見えてきた私の夢」

#### 優秀賞

後藤 健一（稲津小六年）

「ぼくの夢はコックさん」

碓 亜沙美（下米田小六年）

「夢の実現」

#### 佳作

大島 由貴（稲津小六年）

「将来は科学者」

徳永実沙樹（桜ヶ丘小六年）

「自分の夢に向かって」

納土 裕衣（太田小六年）

「私の将来の夢」

板津 百香（三和小六年）

「保育士になりたい」

若尾 瑞恵（下米田小六年）

「料理の先生になりたい」

渡辺 暁子（下米田小六年）

「人の心をうつピアニストに」

渡辺 亮祐（下米田小六年）

「ぼくの夢」

### 〈中学生の部〉

#### 最優秀賞

座馬 結衣（東中二年）

「わたしの夢」

#### 優秀賞

塚本 ゆい（神測中一年）

「私の夢」

木澤ゆかり（双葉中三年）

「私の夢」

#### 佳作

谷口祐里香（濃南中三年）

「自分の夢をかなえるためには」

森川紗由香（東可児中三年）

「私の大きなユメ」

伊藤 茜（中部中二年）

「一人一人を守ること、夢をもつこと」

奥村 由紀（中部中二年）

「私から」

片桐 亮子（東中一年）

「私の夢」

川合 文香（西中三年）

「私の夢」



\*応募された子供達の「夢」を応援したいとの思いを抱かれた顕彰会会員の方々に、作文選考に携わっていただき、ありがとうございました。ご協力ありがとうございます。